



むらさん

第19号

発行者

山形県立村山産業高等学校
PTA広報委員会

印刷

中央印刷(株)村山支店
TEL 0237(55)3700



対面式



入学式



学年行事風景(3年生)



ムラサンキタマチマルシェ



壮行式



むらやま徳内まつり参加

日頃、本校の教育活動につきまして、ご理解とご協力を賜り、深く感謝申し上げます。本校は、今年度新たに「コミュニティ・スクール」に移行し、より保護者や地域の方々に学校運営への参画をいただくことになりました。農工商産業界をはじめ、地元自治体、PTA関係者などに幅広く委員を委嘱しております。また、県事業をもとに、県、村山市、東根市、地元産業界等とともに「産業教育連携協議会」を立ち上げ、連携・協働しながら更なる教育の充実



地域と共に歩みながら、 多様な学びを提供できる学校に

校長 伊藤 久 敏

を図ることといたしました。カーボンニュートラルやスマート農林業など新たな分野への挑戦、全日本製造業コマ大戦の主催や地元地域や学校のPR活動の実施、より高いレベルでの資格取得や検定合格などに取り組むこととしております。今後、生徒が主体的に活躍できる多様な学びを提供し、魅力ある学校づくりを進めてまいります。会員の皆様には、今後ともご支援を賜りますようお願い申し上げます。



人材育成

PTA会長 齋 藤 淳 哉

本年度、村山産業高等学校PTA会長に任命されました齋藤です。一年間、子供達が安心・安全な学校生活が送れますように、皆さんのご協力のほどよろしくお願いいたします。

さて、本校は、今年で創立十周年という記念すべき年となります。これまでの歩みをふり返りますと、新聞等に日々生徒の活躍が取り上げられ、また、「ムラサンキタマチマルシェ」など地域の方々にも気軽に学校に來校していただく

ことで、生徒の活動に自信を与えてくれているものと思っております。また、昨今の地域の人口減少とともに生徒数の確保が大切となつてきています。農業・工業・商業が一体となった実業高校の特色を生かしながら、日々変化する社会に対応できる現場力に強い人材育成を期待している所です。最後に、学校・家庭・地域が協力し、一緒に「村産」を盛り上げていきましょう。

感謝を忘れずに

PTA副会長 植松 大祐

会員の皆様には日頃よりPTA活動にご協力を賜り、深く感謝申し上げます。

今年度もスタートし半年が過ぎようとしています。五月に新型コロナウイルス感染症が5類に引き下げられ、入学以来見る事のできなかった友達や先生の表情を見る事ができ、笑顔の絶えない学校の中で、生徒達は制限のない活動を心から楽しんでいる事でしょう。

昨年度大変好評を頂き、4月に第二回目が開催されたムラサキキタマチマルシェ、先日徳内まつりへの参加等、地域と密着した活動も活発になっております。このような活動は生徒、PTAのみならず、行政や地域の皆様、農工商関係者の皆様の支えがあったものと、改めて感謝の気持ちを抱いたところです。

今後とも生徒の為のPTA活動へご理解とご協力、宜しくお願い申し上げます。

PTA活動について

PTA副会長 平山 龍一

村山産業高校PTA副会長に就任いたしました、平山龍一です。

これまでは小学校、中学校とPTA活動に携わらせていただき、子どもたちの成長を見守り、学校の教育活動を支える役割を担ってきました。

高校になると子どもたちが自立する時期を迎え、PTAとしてできることは限られてきますが、今後は村山産業高校のファンとして、生徒たちの活躍を応援していきたいと考えております。

具体的には、
・村山産業高校のSNSやホームページを積極的に閲覧し、学校の情報を収集する

・さまざまな学校行事やイベントに参加して、生徒たちの様子を見守る
・PTA活動の魅力を多くの保護者に伝え、参加を促すといった活動に取り組んでまいります。

また、学校と家庭の連携を深め、生徒たちの健全な成長をサポートしていきたいと考えております。

今後とも、PTA活動へのご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

研修活動へご協力を

研修委員長 齋藤 秀一

PTA活動機関の委員会の一つとして研修委員会があります。新型コロナウイルス感染症が法令上「五類」へ移行したため、色々中止等になっていた行事等が開催出来る様になって来ました。さて、研修委員の活動といたしまして、研修会等への参加、研修会等の計画、実施です。研修会とは、県や地域及び全国、東北のPTA連合会が開催する研修会です。参加する各学校PTAと連携を深め、活動の充実と教育の向上を目的としています。校内研修会とは、PTA総会の時行なわれ保護者が参加する機会であります。一人でも多くの人に参加していただき、保護者の方々が顔見知りになっていただき、今後のPTA活動が充実し、有意義なものになる様に願っております。

再スタート

広報委員長 菅野 茂洋

今年度より新型コロナウイルスによる行動制限が解除になり従来通りの行事・活動が行う事が可能になりました。これまで我慢してきたエネルギーを全力で色々な事に注ぐ事が出来た一年になったかと思えます。

それに伴い生徒皆さんの活躍や充実した行事を会報に掲載出来る事が大変うれしく思います。

当り前の事を当り前に出来る喜びを感じながらこれからの学校生活をエンジョイしてほしいと思います。

最後になりますが、会報製作にご協力頂いた皆様に、感謝を申し上げます。

生活委員長就任にあたって

生活委員長 渡辺 敏充

はじめまして。この度、生活委員長に就任しました渡辺敏充と申します。PTA専門委員長に選ばれ、重責を感じております。

PTAは教育と家庭との連

携を強化し、子供たちの成長と発展を支える重要な役割を果たしています。私たちの使命は、学校と保護者が協力し、共に子供たちの未来を明るくすることです。この使命に全力で取り組んでまいります。

私たちの委員会は、生徒たちが安心・安全で楽しい学校生活を送れるように皆で協力し、人生で一度きりの高校生活が一生の思い出になるよう、陰で支えていきたいと考えております。また、皆様と共に協力していくことを楽しみにしています。PTAの一員として、地域社会に貢献し、子供たちの幸福と成功に向けて協力しましょう。皆様と共に素晴らしい年を過ごせることを楽しみにしております。よろしくお願い申し上げます。



柴崎前PTA会長「東北地区高等学校PTA連合会より感謝状の贈呈」

学科紹介

農業経営科

農業経営科では、「作る（栽培する）」「加工する」「販売する」の農業の六次産業化に則した学習を行っています。地域に根差した果樹栽培では、オウトウ、西洋ナシ、リンゴ、ブドウ等のすべての栽培管理を経験し、農業の基礎を身に付けます。また、地域の農家による剪定方法の指導も仰ぎ、現場の活きた技術も学んでいます。作物部門においては、地域で栽培されている水稲の他に、旧村山農業高校原産の酒米「山酒四号」を用いて地元の酒造会社「六歌仙」様と連携し、日本酒「花ひかり」を製造、販売していただいております。

加工技術においては、栽培した果物を缶詰やジュースに加工する技術やパンや菓子類、漬物や麺類等の製造方法を広く学び、農業の六次産業化を実践できる能力を様々な事業を通して身に付けていきます。生産物を扱う学科の強みを活かして、学科の枠組みに囚われず地域と連携を図りながら、生徒の学習に深みが出るように学科として取り組んでいます。たいと考えております。

農業環境・みどり活用科

みどり活用科一年生は農業と環境・植物バイオ・総合実習等の授業を通して農業の基礎・基本を学ぶ。二年生は園芸活用コースでは野菜・草花分野に関する学習、緑地保全コースでは環境（森林・測量）分野の二コースに別れ学習を行う。三年生は農業環境科として緑化技術コースでは草花やフラワールンジメン、緑地保全コースでは林業や木工・菌類生産など、より専門性を高めた学習を行う。

本科では、変化の早い現代社会の先頭に立ち活躍できる人材育成を目指し、専門家や技術者の指導を受ける機会や、学習成果を発揮する場を地域に求める等、社会との接点を多く設け、主体的に考え活動できる生徒を育てている。

みどり活用科は三年次に食品製造と地域資源活動が加わるため、これまでの学習を踏まえた新たな取り組みを展開し、今まで以上に充実した学習ができる環境づくりに学科職員それぞれが取り組んでいます。

機械科

機械科には、三年生が十九名、二年生が十一名、一年生が十三名の合計五十三名の生徒が在籍する。少数精鋭であると言いたいところだが、正直年々減少していく生徒数に、危機感を覚えている。

今年度は、コロナによる行動制限が解除され、様々な行事が通常モードに戻りつつあるが、これを機会に、二年生のインターシップを全員参加に再開した。原則、一人一社とし、探究学習と絡めて、事前学習、事後報告ともにクイズ形式の発表会を行った。プレマツの道順を調べたり、スマホで撮影した写真や会社のパンフレットから資料をスクリーンに取り込んだり、一人一人がIT機器を駆使して発表を行ったことが目新しい。

資格取得では、三年生が初めてQC検定に取り組み、十一名の合格者を出した。ワイプロ検定では、一年生の後藤晴希君が機械科で初めて二級に合格している。前期のジュニアマイスターでは、すでにゴールド二名の受賞者を出すことができた。

これは宣伝になるが、十一月十一日（土）に本校で「全日本製造業コマ大戦むらさん場所2023」を開催することになった。企業と高校生、大学生がガチで戦うコマ廻しの大会だ。是非、皆さん見に来てほしい。

機械科は、少数ながら一人一人が頑張っている。

電子情報科

電子情報科は、AIやIoT技術を基礎とした新しいものづくり活動や、学校で学んだ専門知識を基盤に技能検定・電気工事士などの国家資格に挑戦しています。さらに三年生においては第二級デジタル通信の国家資格取得にクラス全員が受験しています。

競技会では、三年笠原陽一・小浦白虎の二名が、第六一回技能五輪全国大会（十一月・愛知県）ウェブデザイン職種に出場を決めました。さらに二年庄司洸太・矢萩哉多の二名が若年者ものづくり競技大会（八月・静岡県）ウェブデザイン職種に出場しました。他にも高校生ものづくりコンテストの山形県大会には電気工事部門・電子回路組立部門の二つの部門に電子情報科の生徒が出場しております。

ものづくりの活動では、むらやま徳内祭りの「木札」を電子情報科のレーザ加工機で三二〇枚製作し、実行委員会に寄贈しました。祭りに参加された多くの方々に手にしていただけたと思っております。

流通ビジネス科

今年度一年生二四名が第十期生として入学、毎年恒例の学科オリエンテーションでは三年生が中心となり歓迎行事の企画から運営を行い、学科生徒間の交流及びレクリエーションを開催しました。

インターシップ就業体験については、地域のサービスマーケットやこども園、図書館などでの就業体験も復活、コロナ禍以前の形態で実施、併せて長期インターシップが今年度より実施され、将来の進路希望に沿った体験先で三年生一名が取り組んだ。

三年生は進路目標実現に向けて積極的に取り組んでおり、各種検定試験においては一級に複数名合格者を出している。また課題研究では今年度より通年研究へと変更し、地域課題解決に向け「仮説立案」「実地調査」等に取り組んでいる。

一年生は入学後初めての検定試験を受験、多くの合格者を出すと共に目標に向かい努力する大切さを学んだ。

二年生はマーケティングの授業にて学校紹介ボスターの制作を計画、今後出身中学校にて掲示される予定である。

生徒会役員紹介

生徒会長 森谷 岳琉

昨年までは新型コロナウイルスの影響を受けて、「コロナ禍だからできること」をモットーにしていたことが、活動の制限がかかった状態でした。ですが今年は何よりも全校生徒が耕道会館に集まった状態での壮行式で力強いエールを送れた事、この事に勝ることはないと思います。これからの村山産業高校は強いぞ！という思いを生徒の気持ち、先生方の気持ち共々団結して、制限された分これから盛り上げていきましょう！

生徒会副会長 鈴木 陽太

今年の生徒会は去年と比べコロナの影響をあまり受けずに学校のイベントや行事などを行うことができました。生徒会の活動では、生徒会理事や他の委員会と連携し、協力しながらムラサンキタマチマルシェやクラスマッチを行うことができました。村産の生徒一人ひとりが充実した高校生活を送れるよう最善を尽くします。残るイベントは文化祭と十月のマルシェです。限られた時間の中ですが、精一杯頑張っていきます。

生徒会副会長 増川 琳太

コロナウイルスが五類に移行されコロナ前の生活に戻りつつあります。生徒会の活動も昨年とは違い、壮行式や生徒総会を耕道会館に全校生徒が集まって行いました。また、クラスマッチも昨年よりも制限が緩和され昨年以上のクラスマッチにすることができたとおもいます。どれも全校生徒の皆さんの協力があってこそ成功できたものです。これから村産祭や生徒会役員選挙などありますが、生徒会への協力よろしく願います。

生徒会議長 菅野 一星

今年は新型コロナウイルスの五類移行に伴い、去年から大きく変わり、感染症流行前の形に戻って生活しています。集会も去年の形と変わって、全校生徒が耕道会館に集まって行っています。去年より多くの生徒の前で仕事を行います。が、それでも緊張せず議長としてスムーズな会の進行に努めています。生徒会での残りの大きな行事は、文化祭とマルシェがあります。地域全体で盛り上がるイベントにできるように努力していきます。

生徒会副議長 原田 陽生

私が生徒会に入ってから半年が過ぎました。私は執行部に入ってから、「生徒会長と議長を支える！」という思いでやる気に満ちています。副議長という仕事は大変なのは覚悟していましたが、生徒会役員そして生徒会理事のみなさんのおかげで、楽しく活動することが出来ています。残りの任期の中で村産祭やマルシェなど数多くの行事企画が残っていますので、しっかりと支えてこの学校をより良いものにしていきます。

応援団長 遠藤美寿々

私達村産生徒会は将来を見据え充実した学校生活を生徒のみなさんが送れるように部活動の任意加入制などに関し議論を重ね、会長を中心に革命を起こそうとしています。応援団長としては二年ぶりの全校応援ができ、村産一丸となれたことを嬉しく思います。創立十周年を迎えようとしている今、奪われた青春を取り返すため、文化祭などの生徒会活動に最善を尽くします。これからも村産生徒会をよろしく願います。

PTA各種大会に参加して

高P連各所大会に参加して 齋藤 淳哉

今年度、高P連の県と東北地区大会に参加させていただきしたので紹介します。令和五年度第六十九回山形県高等学校PTA連合会研修会(村山大会)が六月九日に寒河江市を会場に開催されました。

テーマは「山形の未来を託す」子供たちを支えるためにPTAが出来ること。のものと、県内の三校の事例発表がありました。その中で特に印象深かったのは、日常生活の中で親と子のコミュニケーションのあるべき姿を考えるということでした。今、私達を取り巻く環境は、日々変化し子供達もICT等の活用により情報化技術が進んでいきます。その中で、私達は子供に対して期待と不安を持ちながら生活しているのではないのでしょうか。

親と子が正面から向き合うことも大切だと思いが、それよりも温かく見守り、先回りしないで子供自身からの相談を待つことも必要ではないかと感じさせられた大会でした。また、第七十二回東北地区高等学校PTA連合会福島大会

会が七月六日、七日に「届けよう、エール」未来を切り拓く子どもたちへ」のもと、盛大に開催されました。

コロナ禍が長く続き生徒やPTA活動も制限された中でも、出来る範囲で工夫しながら活動している姿が印象的でした。本校も変化する社会に対応し、たくましく切り拓いていく力そして、多様な個性を認め合いながら未来を創造できる力を養ってほしいと思いました。

最後に「おはよう」「いい朝らしい」「おかえりなさい」という日常の会話が改めて親と子をつなぐ大切なコミュニケーションであり、私自身これからも継続していきたいと思っています。



部活動紹介(運動部編)

自転車競技部

私たちは現在十一名で活動を行っています。日常の練習は、ロード練習が中心で、ウェイトトレーニングにも力を入れています。メインであるロード練習は、七十キロから百キロメートル程度をチームを組んで走ります。チーム練習では、先頭交代をしながら仲間と協力し合って練習を行っています。日々の練習は単調な練習が続くため辛い時もありますが、それぞれが高い目標を持ち、達成するために努力を続けています。

今年三名がインターハイ出場を果たし、今後も更なる高みを目指して取り組んでいきます。

陸上競技部

陸上競技部は、男子十名、女子マネ一名の計十一名で活動しています。火曜から金曜までの平日は、学校のグラウンドで、それぞれの種目に分かれて練習を行い、休日は、天童・新庄陸上競技場にて練習をしています。

春の総体、秋の新人戦での入賞を目指して、暑さにも寒さにも負けずに、日々練習を

頑張っています。

これからも部員同士、切磋琢磨し、頑張っていきます。

野球部

夏の選手権大会での全校応援、誠にありがとうございました。皆様の力強い声援は選手たちの背中を押すものとなり、相手に真っ向から立ち向かっていく際の心強い支えとなりました。創学館相手に敗れたものの、三年生が見せてくれた勇姿は次チームへと引き継がれます。私学優勢の現状は同じですが、我々野球部がその現状に風穴を空け「公立革命」を起こしてみせます。

剣道部

私たち剣道部は、部員二人顧問三人で活動しています。平日はH.R.終わりから五時くらいまで、休日は基本土曜日の八時四十分くらいから十一時までの約三時間です。火曜日は休みになっています。剣道部は五時電で帰れたり夏はアイスが食べられたり、稽古は厳しくメリハリがあるホワイト部活です。

秋からは、新人戦も始まります。県大会ベスト8目指して頑張ります。

柔道部

私達柔道部は、週五日基礎

から試合形式までの練習を行っています。

現在、部員は少なくなっていますが、部員一人一人に目標があり、その目標達成に向けて日々練習しています。

「短期集中」をテーマとして掲げ、楽しく活動しています。勝ち負けだけにこだわらず、協力し合いながら心身共に強く成長したいと思っています。

男子バスケットボール部

男子バスケットボール部は選手七人、マネージャー一人合計八人で活動しています。コーチや顧問の先生もみんな経験者で優しく指導してくれます。公式戦「一勝」という目標のもと日々部活動に取り組んでいます。初心者の方でも歓迎です。人数が増えるよう願っています。入部待っています。

男子ハンドボール部

ハンドボール部は、県ベスト4以上を目標とし、県新人大会では決勝に進めるように取り組んでいます。基本的に火曜日はトレーニング、その他の平日は体育館で練習、土日は練習試合もあります。部員は八人と少ないですが、先輩やOBが来てくださるので助かっています。

顧問の先生や先輩の指導をもとに目標達成のために毎日

頑張っています。

山岳部

今年度は世代交代が記録的に早く五月から新チームで活動しています。東北大会にも出れない寂しさより、純粹に野山を楽しむ活動に専念できて嬉しいです。コロナが収まり、尾瀬や北アルプス遠征などスケールの大きな合宿をこなし、着実に力をつけています。登山は必殺技のない地味な種目ですが、途中のどの一歩も頂到着には欠かせない一歩。日々の活動を大事しながら次の頂点をめざしています。

サッカー部

私たちサッカー部は、「県大会出場」を目標に部員三十名(マネージャーを含む)で活動しています。未経験者も多くいますが、時間を有効的に使い、日々成長をしています。格上の相手でも最後まで諦める事無く全員がボールを追えるように心身共に鍛えています。諸先輩方が築き上げた「村産サッカー」を受け継ぎ、自分達のサッカーに磨きをかけていきます。

卓球部

私たち卓球部は、現在男子十名で、剣道場で活動をしています。基礎的な練習を中心として

個人ごとの課題、弱点を克服し、大会で一つでも勝ち上がることを目標にして日々活動しています。

練習試合などでの実践的な経験を踏まえながら力を蓄えていきたいです。

硬式テニス部

硬式テニス部は、とても楽しい部活動です。先輩、後輩関係なく、部員全員が楽しみながら活動しています。ただ楽しむだけでなく、大会で勝つために全力で部活に取り組んでいます。練習で、自分の良い点悪い点を考えて、修正していきます。私たちの部活は、メリハリをもって活動しているのが、充実した部活動をするのが出来ます。



前期部活動等結果報告

■最北地区高等学校総合体育大会

・自転車競技部

1 km タイムトライアル

3位 石川 大雅

3 km インデヴィデュアルバシシュート

2位 庄司 薫

16 km ポイントレース

2位 石川 大雅

男子 インデヴィデュアルバシシュート

3位 内田尚太郎

男子 インデヴィデュアルバシシュート

2位 内田尚太郎

トラック総合

2位 庄司 薫

ロード総合

2位 庄司 薫

剣道部

3位 高橋麻由子

女子個人

陸上競技部

男子三段跳び

2位 石澤 勇真

男子砲丸投

2位 板垣 歩斗

男子ハンマー投

2位 板垣 歩斗

男子総合

3位 田中 啓斗

男子フィールド

2位 田中 啓斗

男子ハンドボール部

2位 市川 友都

男子ダブルス

2位 市川 友都

山岳部

1位 市川 友都

団体男子

卓球部

3位 葉 悠翔

男子団体

柔道部

2位 後藤 倅輝

男子団体

男子個人 73 kg級

2位 後藤 倅輝

男子個人 81 kg級

1位 原田 悠仁

男子個人 81 kg級

2位 大類 悠仁

県高等学校総合体育大会

・自転車競技部

3 km インデヴィデュアルバシシュート

3位 石川 大雅

スプリント

1位 佐々木 太成

3位 丹野 敦尊

4 km 速度競走

1位 内田尚太郎

2位 庄司 薫

スクラッチ

2位 石川 大雅

3位 庄司 薫

次号では文化部を含めた大会報告をいたします

16 km ポイントレース 2位 石川 大雅

チームスプリント 3位 内田尚太郎

2位 石川、佐々木、庄司

4 km チームバシシュート 1位 石川、内田、佐々木、庄司

トラック総合 1位 石川、内田、佐々木、庄司

68・4 km 男子 インデヴィデュアルバシシュート

2位 庄司 薫

ロード総合 3位 庄司 薫

学校対抗総合 1位 庄司 薫

男子ハンドボール部 3位 田中 啓斗

山岳部 出場 (4位)

・東北高等学校総合体育大会

・自転車競技部

チームスプリント 12位 石川、佐々木、庄司

スプリント予選 10位 佐々木 太成

ケイリン1回戦 5位 田中 啓斗

ケイリン敗者復活戦 3位 田中 啓斗

ケイリン2回戦 5位 田中 啓斗

7・12位決定戦 5位 (11位) 田中 啓斗

スクラッチ決勝 DNF 石川 大雅

3 km インデヴィデュアルバシシュート

10位 有路 大真

4 km 速度競走予選 4位 内田尚太郎

24 km ポイントレース 8位 内田尚太郎

77・4 km 個人ロードレース (インターハイ出場) 7位 石川 大雅

(インターハイ出場) 8位 内田尚太郎

(インターハイ出場) 24位 庄司 薫

・国体 (東北予選)

・自転車競技部

64・0 km 少年 インデヴィデュアルバシシュート

2位 内田尚太郎

ロードレース 3位 石川 大雅

・国体 (東北予選)

・自転車競技部

少年 インデヴィデュアルバシシュート

3位 石川 大雅

70・2 km

3位 石川 大雅

村産ギャラリー



あとがき

今回も沢山の方にご協力頂き
無事発行することが出来ました。
学校行事等もコロナ禍前に戻
り、子ども達の笑顔が沢山見
られるようになりました。
子ども達の活動等を「むらさ
ん」を通し、伝えられたらと思
います。どうぞよろしくお願
いします。